

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要】

事業所番号	1291000105		
法人名	株式会社 ケアサービス まきの実		
事業所名	グループホーム相浜ガーデン		
所在地	千葉県館山市相浜75-1		
自己評価作成日	2019年10月22日	評価結果市町村受理日	2020年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2019年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】

・入居者様個々の生活リズムを尊重しその人らしい日々をサポートしている。  
 ・立地(事業所敷地内に菜園、徒歩数分で海岸)を生かし屋外へのアプローチが盛んである。  
 ・共同生活の名の基入居者様同士で共同し家事をこなしていることで自立支援を促している。  
 ・定期的実施している運営推進会議では開設当初から委員(区長、民生委員)が変わらず信頼関係がより構築されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所の位置する相浜地区は、太平洋に面した海辺にあり市内でも有数の高齢化地域である。管理者は市の地域作り活動の中心メンバーとして、地域の高齢者支援に活躍している。今回の台風15号の直撃を受け、周辺は甚大な被害に遭遇した。幸い事業所は建物の損壊も軽微で、停電も短く、ガスは使用できたが、隣家の屋根が飛来し職員の車1台に被害が生じた。職員の通勤面では倒木等により苦労が多かった。その中にありながら、職員は自宅の事より利用者優先の姿勢で出勤し、同時に近隣高齢者の安全確認と、台風情報の提供などで協力した。入居者の平均年齢は89歳、6割以上が介護度3以上と高齢化と高介護度の方が多い。日頃より管理者は、主任、ユニットリーダー2名と常に相談しており、今年度は職員も1名増員され、系列医療法人の全面的な応援も得て、より手厚い介護に取り組み家族からの信頼も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(○印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	株式会社 ケアサービス まきの実 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社の経営理念、信条に基づく事業所目標(各階含む)を掲げ日々のケアの中で実践している。	事業所内に法人の経営理念・信条を掲示している。2つのユニット毎に職員はリーダーを中心に話し合い、現在介護の中で不足している課題を事業所目標として選び、その実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所を囲む地域住民の方とは常に交流あり。特に9月台風被害の際には互いに声を掛け合い情報共有、サポートに発展した。	自治会に加入、地域の見守り以外に、台風時は近隣を訪問し情報提供や安全確認を行った。施設長は市の地域作り活動の推進役として、講習会や健康作りなどで協力し、高齢化率65%の地域での課題解決に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的実施している地域づくり活動の中で地域住民の方へグループホームや認知症の理解を深める投げかけを実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施済(2カ月に1度開催) 多面的な意見交換を踏まえ情報共有、交換がされている。	民生委員、市高齢者福祉課、地域包括支援センター、区長2名、家族代表の参加で年間6回開催。利用者状況、入退去・アクシデント、身体拘束等適正化委員会としての報告・意見交換を行い、運営に活かしている。住民からの環境問題対策要望も話し合いの上、対策を講じた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	虐待ケースの受け入れ等適宜市、地域包括との情報共有、発信が出来る。	市高齢者福祉課からは運営推進会議に参加頂くので、その場で情報交換している。その他高齢者福祉課、地域包括支援センターセンターは受入相談などで来訪する機会が多く、協力関係は構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に要綱を掲示すると共に定期実施の運営推進会議の場においても現状報告をし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回本部より提供のある身体拘束排除に関するDVD研修とレポート提出が義務づけられている。新人は入職時の新人研修で実施される。日頃から拘束しない支援について話し合い、外出希望者は職員が同行するなど支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護事故事例を挙げ客観的視点に立ち意識を常に高め他人ごとでは無い自覚を養っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の担当している後見人の方と随時情報共有が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明は当然として以後についても不明点等はいつでも対応できる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、電話等で問い合わせ等あった場合には運営推進会議の場において共有し多面的な意見を頂戴し反映させている。	来訪(面会)時は要望や意見を聞く良い機会と捉えて、聞かれる前に早めに説明している。誕生日会に家族を誘う事もある。訪問頻度にばらつきがあり、定期的なお便りで健康・暮らしぶりを知らせ、電話などで確認し、意見等は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の他、管理者、主任、ユニットリーダーを擁立しており要件、内容を踏まえ振り分けが出来ている。その他直接会えない場合においても弊社ネットワークツールを用いメールでの情報交換、共有も出来ている。	職員との良きコミュニケーション作りに努めている。事業所内における定期会議は実施していないが、社内ネットワークの活用、日々の申し送りにて情報共有化が図られている。人事考課時は、先ず主任が聞き、その結果は管理者へ報告され、必要に応じて職員と面談確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の機会その他、日々の就業姿勢等を鑑みて適宜評価、検討をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	後継者育成の必要性を実践し、権限移譲を促進させボトムアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な弊社管理者会議の地域づくり活動の場において情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護記録システムを活用し特に初期段階においては密な記録入力を実践している。情報量の多さ、共有度の高さから信頼関係がより築けるものと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの発信を共有し事業所(チーム)として出来ることを精査し出来る事と出来ない事の線引きを明確にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの選択が全てではない事、他のサービスの検討の余地についても柔軟に検討することが出来る環境づくりをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護の名の基一方的な立場におかず尊重した関わりを続けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のケアについてご家族様の存在を重要なポジションと理解し実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧友、知人等の面会も日頃からあり居室誘導する等ゆっくり過ごせる様支援している。	知人等の訪問受入は事前に家族に確認している。家族から「是非会わせてやってくれ」という知人もいる。開設当初から来訪の地元理容師がカット中に入居者と昔の話をするなど信頼関係も築かれている様子がうかがえる。春の相浜祭りでは太鼓・お囃子が敷地まで来てくれ皆が喜んでいる。夏には西瓜割り大会で楽しむ等、子どもの頃の思い出に重なると共に季節が感じられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で感情の起伏から関係性が一時的にこじれる事があっても環境を工夫したり職員の介入をする事で良好な関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても不定期に当事業所を訪問されるご家族様あり。情報共有の場となっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の場においてそれぞれ入居者様のニーズを擦り合わせ思いを反映させている。	会話や動作等から発信されるサインをいち早く気付いてフォローしている。ニーズを捉え、実現するための横のつながりを考え支援している。アンケートでも多くの家族が思いや意向等を分ってくれると回答している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報やご家族様からの新たな情報等を共有しサービスの質向上に向けて取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う、という気づきを発見者が見過ごしても他の職員からの発信、共有のアプローチがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護担当者のモニタリングをCM、ユニットリーダー、主任、管理者と共有し多面的な意見交換が出来ている。	本人のニーズを基に、居室担当やケアマネ・各職員が介護記録システムから日々の記録を抽出し、検討・話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは3か月毎に居室担当が行い、ケアマネ・管理者等全職員が共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録システムを活用し特記事項の抽出、把握、共有がされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る事と出来ない事を明確にしその中で出来る事を模索し試行錯誤している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理容店が不定期に出張してくることで馴染みの入居者様は地域の事や当時の事の話を通じ回想している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医による訪問診察がある。その他他院主治医希望の場合についても柔軟に対応し適切に情報が伝わる様支援している。	月2回の訪問医(法人理事長及び認知症専門医)及び看護師の月2回の往診の他、希望・必要に応じて歯科医の訪問もある。眼科等専門医受診には介護職員が介護タクシーを利用し対応することもある。看護師とは24Hオンコールで連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコールで入居者様の体調変化を報告、連絡、相談が実施出来ており速やかな支持を仰ぐことが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ内の医療機関に限らず各関係機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化により都度の連絡、報告を踏まえ必要に応じて医師からのムンテラを実施している	入居時に看取りの方針を説明している。重度化した場合に、家族に再確認している。必要時には医師からのムンテラを実施し、家族の協力を得ながら医師、看護師、職員等が共有意識のもと、支援に取り組む仕組みがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	総合防災訓練を実施し消防職員より救急蘇生法について指導を仰いだ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施により各職員の意識を高めている。地域との連携においては日頃から情報共有を図っている。	年2回の防災訓練を実施した。台風15号では約6時間の停電と通信手段の遮断等を経験。備蓄内容を見直し、カセットコンロや発電機、常温用の食料を用意した。直後の19号ではこれらの教訓が生かされ、また市や本部からの救援があり、共生の意義を実感している。	思いがけない2回もの台風襲来であった。今後災害対策については、地震・火災・水害・台風などの分野での見直しをお願いしたい。併せて、他の事業所の教訓と対策も共有化して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	忘れがちな重要な事項と捉えている。適宜職員間で指摘し合える関係性づくりに努めている。	一人ひとりの出来ること出来ないことに配慮した介入をしている。入居者を「〇〇さん」と、さん付けで呼ぶ他、トイレの戸は閉めて羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気分、体調、思いを最優先にしつつ一定のQOLが保持できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入眠時間等入居者様個々の生活リズムを尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選択時は複数衣類を提示し入居者様に選択して頂いている。 ヘアアクセサリー、ネックレスの装着支援		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のリクエストの中で現実的に近づけられる範疇で対応を工夫している。その他盛り付け、配膳、下膳、片付け等も残存機能を生かし取り組める環境をつくっている。	厨房専任の職員を配置し、出来立てのおいしい食事が提供されている。ミキサー食や刻み食などの対応が必要な方にも配慮している。出来る方は職員と一緒に下膳や片付け等行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護職員、調理職員とで日頃から情報共有を図っている。また調理員により入居者様の摂取動作、様子を踏まえ適宜調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	都度の口腔ケアの他本人、ご家族様からの希望等を踏まえ訪問歯科を適用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔、状況等を踏まえ安易に自立と逆行した対応を取らないよう配慮している。	トイレでの排泄を支援し、本人の状況に合わせて声掛け・誘導をしている。トイレの自立を目指しており、些細なことにも職員が直ぐに介助してしまうことが無いよう、配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の他食品(ブルーン、オリゴ糖、海藻根菜類)を提供する他水分強化、運動等対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3名入浴を目安に1週間2回の入浴支援を実施している。時間帯についても極力入居者様の意向を反映している。	ひとり週2回の入浴支援をしている。脱衣から洗身、浴室ケアの一連の流れを職員が一对一で行っている。その時入浴を希望しない方には日時や順番、職員を変えての声掛けなどで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド環境(枕、布団類)の持ち込みにより自宅に近い環境を作り出している。日中体調、様子を踏まえ適宜休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬納品時の検品、提供時の対応徹底を図っている。その他臨時薬、追加処方時には経過の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活リズム、性格を尊重し過ごしやすい環境を整えるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれニーズに則したかたちで適宜対応している。その他ご家族様からの要望にも柔軟に対応している。	天気の良い日は車いすの方も一緒に、外気浴を兼ねて畑に出たり、海がすぐその利点を生かして、潮風に吹かれながら遠くに浮かぶ船や黒潮を見に行ったりしている。	今回のアンケート結果でも、外出頻度は少ない。具体的な要望はないが、どのような外出支援を家族は希望しているか等、家族に今後確認頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のニーズに沿ってご家族様の理解のもと支援、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度入居者様の希望に沿える様対応している。電話対応について制限していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう配慮した装飾を心掛けています。食堂テーブルのレイアウトについては状況に応じて適宜変更調整している。	窓が大きな居間は、陽が差し込み、風に揺れる木々が目に入り、外の様子を感じられる。室内の壁面には大きな文字の日めくりカレンダーがあり、季節感を取り入れた適度な装飾により、利用者に時の流れや四季の移ろいを感じさせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブル、椅子の他ソファの配置に配慮し入居者様同士の関りが持続できるよう取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力、理解を得て使い慣れた馴染みの物を持ち込み配置している。	ベッド、エアコン以外の家具、机や座椅子、置物、什器類の持ち込みは利用者・ご家族のご意向に任せている。愛着のある物を家庭から持ち込み、自宅での生活に近い環境で利用者が安心して穏やかに過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態については突発的な変化も有り得る中で都度その方にとってベストな環境、対応がとれるよう情報共有、カンファレンスの実施ができるよう取り組んでいる。		